



第2回 こども宅食サミット基調講演 親子の「つらい」を見逃さない 社会を目指して

一般社団法人 こども宅食応援団
代表理事 駒崎弘樹

はじめに



認定NPO法人フローレンス
一般社団こども宅食応援団

代表理事
代表理事

駒崎弘樹

- 2004年にNPO法人フローレンスを設立し、日本初の「共済型・訪問型」の病児保育サービスを開始。その後も、小規模保育事業、障害児保育事業など社会問題を解決するための新しい事業モデルを構築。
- 現在、内閣府「子ども・子育て会議」委員などを務める。

こども宅食とは

様々な形で困りごとを抱えている子育て中のご家庭に
周囲に知らない形で、
定期的に食品や生活用品を届ける事業

家庭と
つながる

関係性を
築く

変化を
見つける

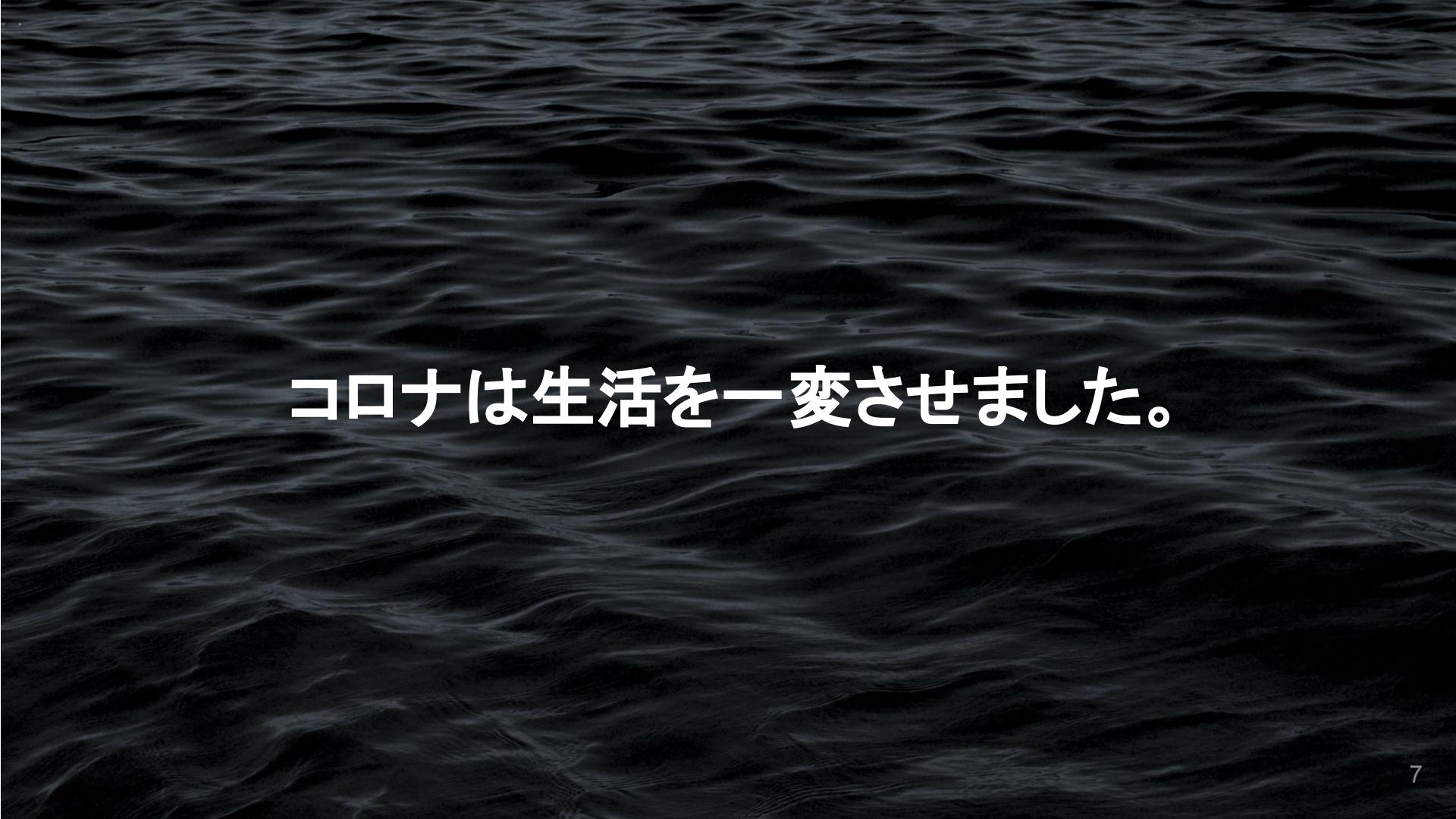
第1回こども宅食サミットから 約1年半がたちました...



サミットの3ヶ月後、20年1月に新型コロナが中国で発見され、
4月には緊急事態宣言、突然の一斉休校へ。



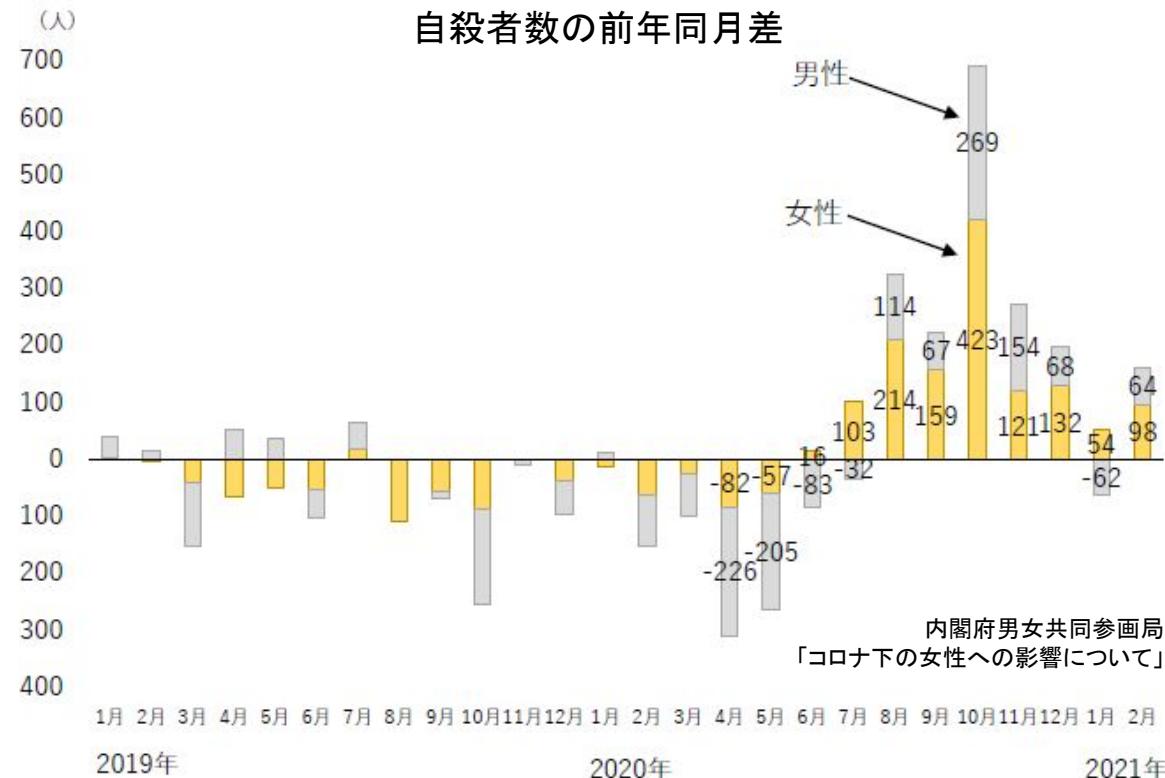
6



コロナは生活を一変させました。

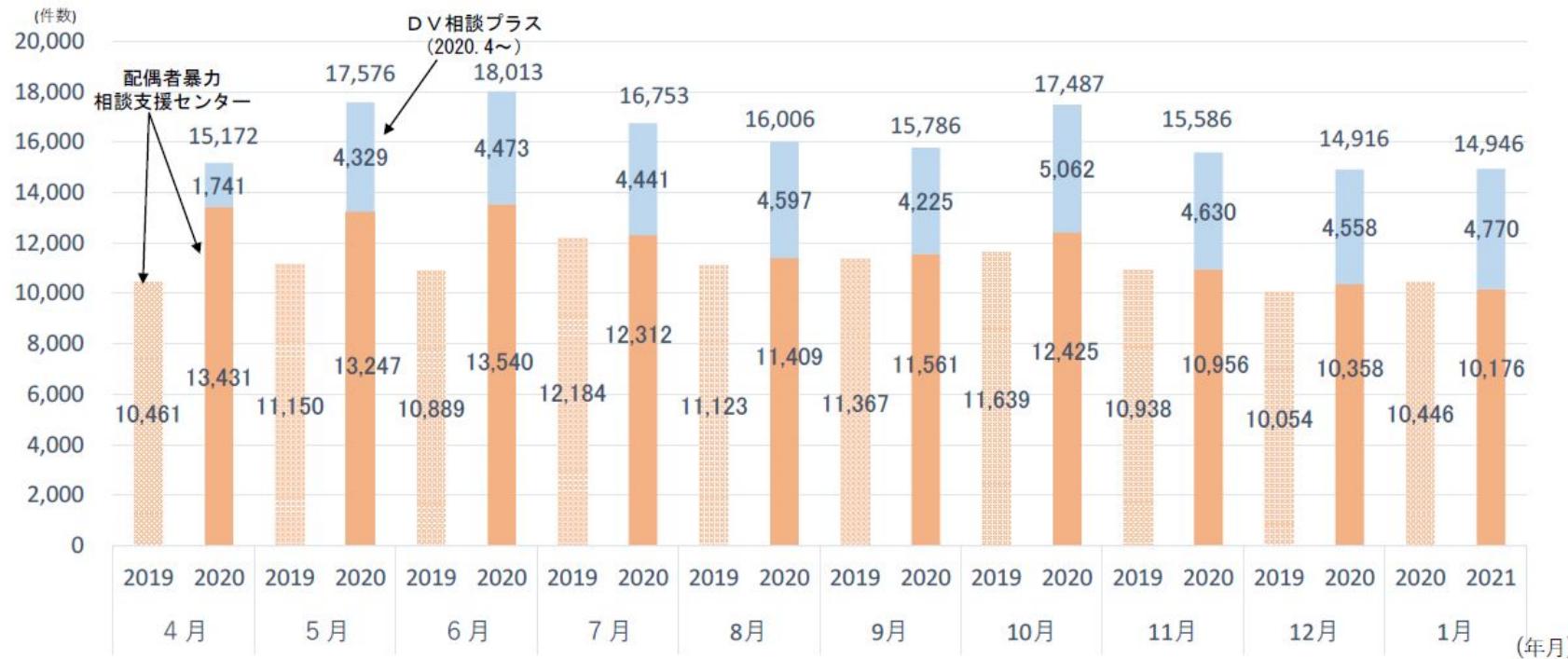
自殺者が大きく増えた。

とくに、女性の自殺者の増加が続いている。



DV相談件数が大きく増えた。

20年4月に開設した「DV相談プラス」の影響もあり、相談数は前年の1.5倍となっている。





動画全編はこちら

: <https://www.youtube.com/watch?v=j-nZdAbV2mg>

(子どもたちは)
コロナで曇ってたからね 顔が



「人との接触を減らす」対策が
社会全体で進み、地域のゆるい、
おおらかなつながりが断たれ、
親子の孤立が深まっていきました。

コロナ対策で3密を避ける必要があるため、

「居場所」型事業の実施が困難になる中、

全国のこども宅食の団体が親子のSOSをキャッチし、食を

届けながら親子の孤立を防ぐ取り組みが

様々な地域に広まりました。



地域のみなさんの動きをサポートするため、
全国の企業から集まる寄付金やマスクなどの物資を、
こども宅食応援団のネットワークを通じて全国の親子に届けました。



北は秋田から、
南は沖縄まで
20団体以上を応援！

そしてついに国も動く

国も、リスクの高い家庭の孤立化に危機感を持ち、
「支援対象児童等見守り強化事業」として31億円の予算を計上。

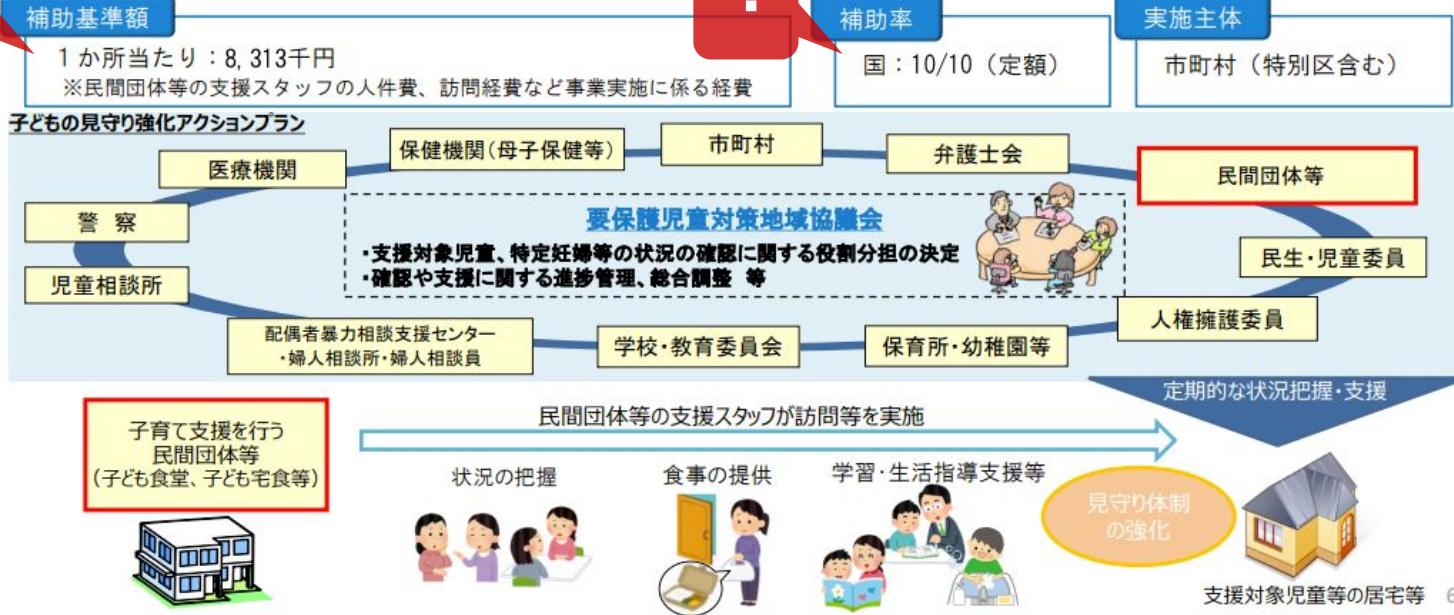
立ち上げから3年でこども宅食が予算化されることに！

目的
・市町村の要保護児童対策地域協議会が中核となって、支援対象児童等の状況を電話や訪問等により定期的に確認し、必要な支援を行う。
・地域の見守りの体制を強化することとする「子どもの見守り強化アクションプラン」を実施。

- 同プランの取組を一層推進するため、子ども食堂や子どもに対する宅食等の支援を行う民間団体等が、要保護児童対策地域協議会の支援対象児童等として登録されている子ども等の居宅を訪問するなどし、状況の把握や食事の提供、学習・生活指導支援等を通じた子どもの見守り体制を強化するための経費を支援する。

!

!



新着 | 社会 | 気象・災害 | 科学・文化 | 政治 | ビジネス | 国際 | スポーツ | 著者 | 地域

注目ワード

藤井二冠

アメリカ大統領選

熱中症

気象

新型コロナウイルス

新型コロナ 国

LIVE

台風8号 24日沖縄本島などに接近見通し



「子ども宅食」に財政支援検討 自民 有志が議連立ち上げへ

2020年8月17日 4時02分

新型コロナウイルスの影響で、子どもたちを集めて食事を提供する「子ども食堂」の運営が難しくなる中、家庭に食品を直接届ける「子ども宅食」の取り組みを広げようと、自民党の有志議員が議員連盟を立ち上げ、運営団体への財政支援などを検討することになりました。



20年8月には
「子ども宅食推進議員連盟」が設立



事例集や実施要綱の共有で事業の導入をサポート！

令和2年度 補正予算！

(令和3年度予算要求にも
盛り込まれています)

こども宅食を活用した 支援対象児童等見守り強化事業 オンライン勉強会

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた今年度の第2次補正予算の「支援対象児童等見守り強化事業」の一環としてどこも食が入ることになりました。国^の補助率が10/10であること、対象世帯の自由度が高いため、これまでアプローチしづらかった家庭に提供できることが注目されており、全国各地の自治体での実施が決まっています。さらに、令和3年度予算要求书にも、この事業は補助率10/10で盛り込まれています！

そこで、今回こども宅食応援団では、実際に業務として関わる実務者のみなさま向けに、**全国の様々な実施事例やノウハウ、事業実施上の課題を共有するための勉強会を開催致します。**各地で広がるこども宅食や見守り強化事業の事例を活用し、全國で最適な事業モデルを構築していくための支援がでてればと思ってます。



支援対象児童等見守り強化事業立ち上げ支援

消毒ジェル10万本 無料配布キャンペーン

経済的困難や地域からの孤立といった課題を抱える子育て家庭へのアウトリーチ型事業「ことも尾食」の全国普及活動に取り組む認定NPO法人フローレンスからお知らせです。

ライオン株式会社から弊社が10万本寄贈を受けた「キレイキレイ薬用ハンドジェル」を、
支援対象県市町村見守り強化事業などを実施する全国の自治体に無償配布します。
(配達費も弊社負担のため無料です)。

消毒ジェルの配布を通じて、全国的にコロナの感染者数の増加が続く状況下での
テキサス州の感染率を緩和し、テキサス州で世界一大きな医療問題へ一歩も近づけず。
会話の端口をつかむ機会を増やすためのきっかけとしてご活用頂ければと思います。

な立ち上げ支援を実施！



お問い合わせ

消毒ジエル配布問い合わせフォーム URL : xxxxxxxxxxxx@xxxxxxxxxxxx



全国への事業の普及が加速！

応援団が連携して
こども宅食が始まった
都道府県

21 地域



応援団が連携している
こども宅食を
実施している団体数

40 団体

こども宅食を
利用している世帯数

6,800 家庭

食支援と専門的相談の2つの活動をベースにしつつ、 推進体制や活動内容は地域によってさまざま。

こども
食堂主体

**食支援活動が
ベース**
悩み事対応として出
口となる
支援活動を拡げる

フード
バンク

任意団体

母子会

保育
事業者

**専門的相談が
ベース**
支援への入口を
広げるために
食を活用

医師や
病院

社協

詳しくは、実施団体調査セクションで！

私達がこれから目指すもの

支援が届きにくい家庭を取り残さない、
新しいアプローチを皆で作って広げる

新しいアプローチで解決しなければならない2つの課題



『行政から見えない層』が支援につながらない



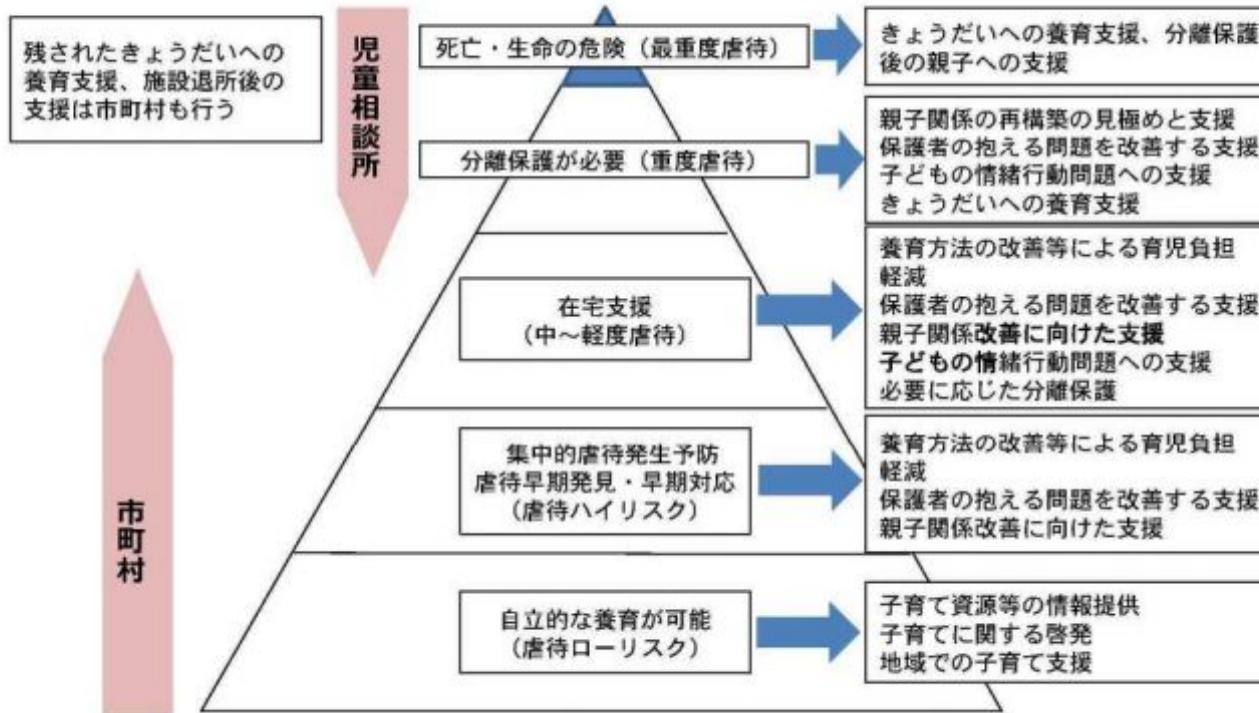
『関係構築』が足りず 支援につながりにくい

『行政から見えない層』が支援につながらない

よく使われる「家庭のリスク度合いと対応策」の図

虐待の重症度等と対応内容及び児童相談所と市町村の役割

出典元：子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版）



現実には「行政等が状況を把握している家庭」だけでなく
「行政や支援につながっていない家庭」が存在している。



支援が届きにくい家庭

利用家庭のうち、要支援家庭・要保護家庭は624世帯だった。また、行政や支援機関が課題や状況を把握できていなかった世帯は1,268世帯と、全体の2割を占める。

後のセッションで詳細を報告します！

要対協の対象となる
要支援家庭、要保護家庭

624世帯

こども宅食利用家庭の9.7%

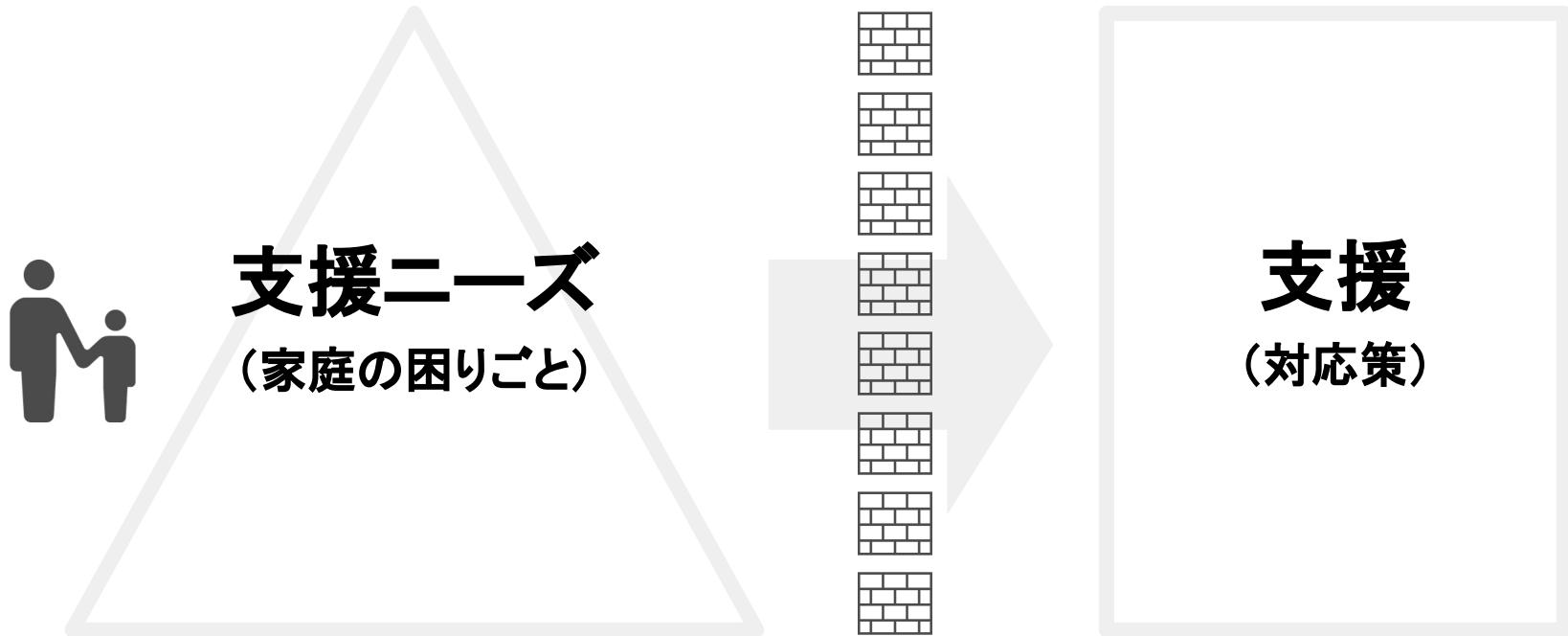
行政や支援機関が課題や状況を
把握できていなかった世帯、
既存の行政の支援が届いていなかった世帯

1,268世帯

こども宅食利用家庭の19.8%

関係構築が足りず、
支援につながりにくくなっている

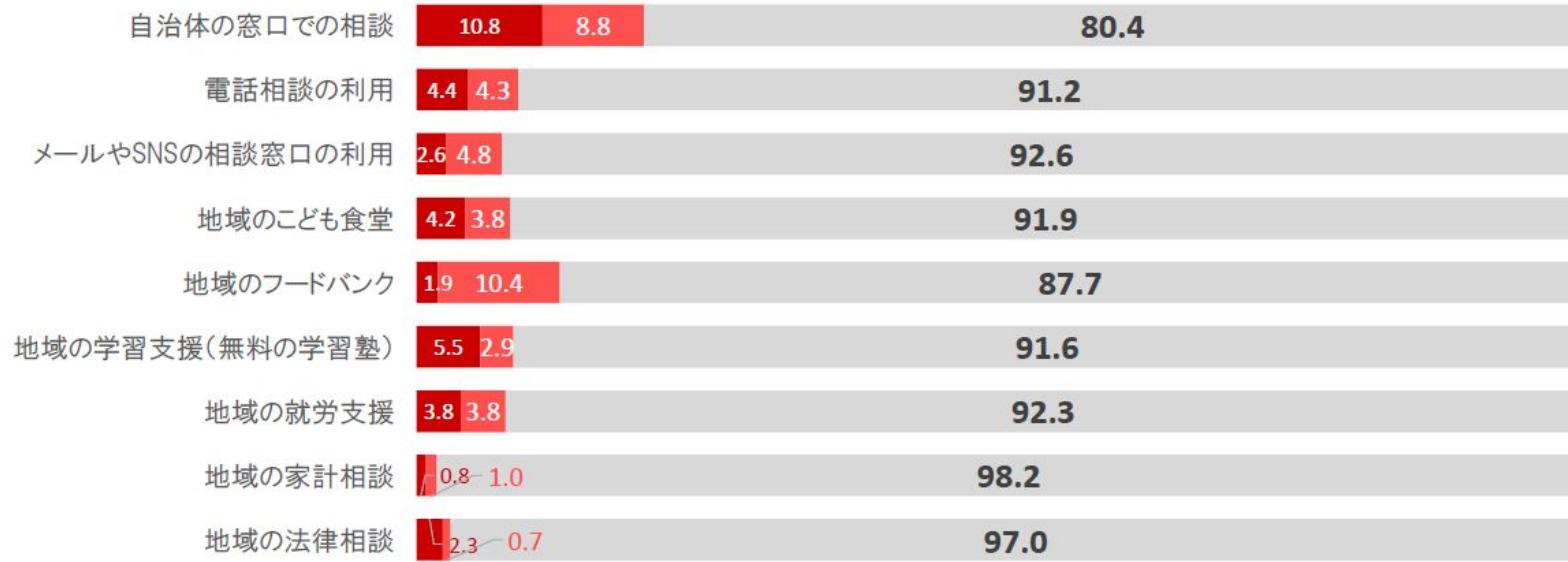
ニーズが分かっても、支援には簡単にはつながらない



困難を抱える家庭であっても支援サービスの利用率は低く、 子ども宅食の利用家庭では8割の人が利用していないのが現状。

以下のサービスや窓口の利用状況について、教えて下さい。

(%)



■コロナ禍以前は利用していたが、今は利用していない

■現在も利用している

■もともと利用していなかった

なぜなら、支援が届きにくい様々な制約や障壁が存在するから



心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは



周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのは周りに知られたくない。



物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。平日に窓口に行く余裕がない。



情報の伝達

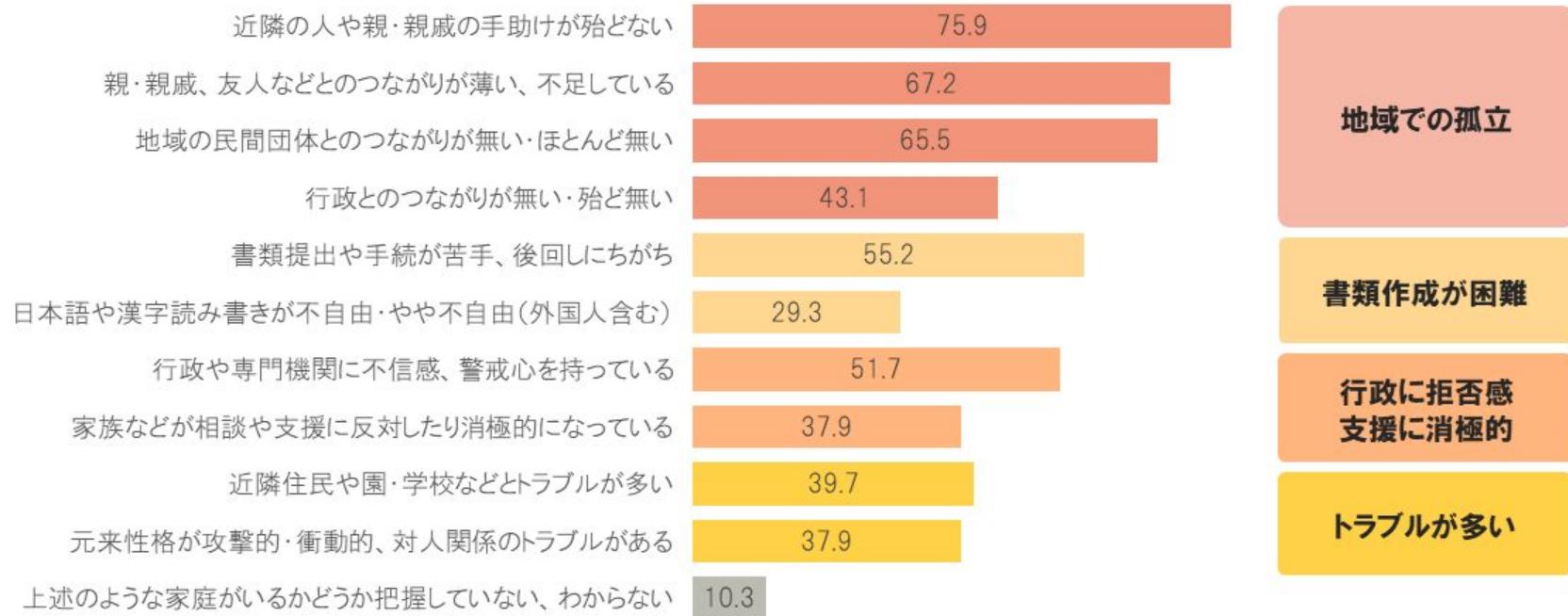
とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと分からない。

課題を抱えている家庭

ほとんどの地域に、孤立している、行政や支援に対する抵抗感がある、申請手続きの難易度が高いなど、多様な事情を抱える、支援につながりにくい家庭がいること明らかとなった。

特に以下のような課題を抱える家庭が利用家庭の中にいますか。いる場合は、あてはまるもの

後のセッションで
詳細を報告します！



支援につなぐには利用家庭との信頼関係の構築が重要！



今日はこれらの課題に立ち向かう全国の実施団体が
各地の取り組みや、それでもぶつかる壁について話します



おわりに

こども宅食の利用家庭から頂いた声

なんとなく強がって、人の助けは借りないと今まで頑張つきましたが、時々疲れてしまうことがあります。ボランティアさんから優しく声をかけてもらうと、気にかけてくれている人がいると感じ、人に頼ることも必要だなど気付かされました。

誰かが見ていてくれているんだと思うようになり安心できました。

私が1人で抱えこんでしまっていたばかりに、子供が私に気を遣って、笑いかけたり、作り笑顔をして接してきましたが、それがなくなりました。



つらさを抱え、孤立する親子とつながりたい。

そして、焦らずに1本1本ずつ、

つながりの糸を地域みんなで増やしていきたい。



そのために、全国の実施団体の皆さんと一緒に、

この新しいアプローチの実践に挑戦し、事業を育て、

全国の子ども達のために他の地域にも広めていきたい。

このサミットから
第二章がスタート！